

完成見学会のご案内

環境の世紀21世紀にふさわしい自然素材の住まいづくりを進めてまいりました「嬉野の家」が完成しました。お施主様のご厚意により、完成見学会を開催させていただきます。

4月2日・3日 午前10時～午後5時

お問合せ <http://yumekikou-happy.com/>

古民家移築再生 **検索** または 子どもたちが喜ぶ家 **検索**

※この旗が現地までご案内します



自然素材でつくった部屋で暮らす Before

「嬉野の家 リフォーム見学会」



人が住まいをつくり 住まいが人の心をつくる (沖縄の古民家 中村家住宅)

人間が家をつくるが 住まいは人間をつくる (イギリス元首相 チャーチル)

IV受賞

おかげさまで
「サガ電子工業(株) 新工場」

詳細は裏面に

☆2015年第10回民家再生奨励賞 大賞 ☆2013年佐賀の家賞
☆第10回木の建築賞 ☆第17回佐賀市景観賞 をいただくことができました。

自然素材で囲まれた数少ないリフォームの見学会です。

- できれば自然素材の家にリフォームしたい方。
- 子どもたちに優しい住まいづくりを実感されたい方。
- 大がかりなリフォームはできないけれど、ダイニング・キッチンだけでもと思われている方。
- まだまだ先のことだけれども、いつかリフォームする時のために、見ておきたい方。
- どこの住宅展示場も同じづくりで、いまいち納得できない方。
- 既製品でない、手造りの「ここちよい家」で暮らしたいと思っている方。

あの時、あのチラシの見学会を見ておけば良かったと、後悔する前に(実際、そのような方がいらっやあって、残念がっていましたから…)

この機会を是非お見逃しなく!!

小さなリフォーム工事もお気軽にご相談下さい!

私たち夢木香は、主に古民家の再生を手がけて来っていますが、最近、部分的なリフォームのご依頼やお問い合わせがあります。私たち夢木香は築100年を超える民家のリフォームを数多く手がけて培った経験と実績を活かし、これらのご要望に真摯にお答えしたいと考えています。「小さな工事だけれども、どこに相談したら良いのかな?」とお悩みの方も私たち夢木香にご案内にご相談いただければ幸いです。

古民家に学ぶこと

夢木香の住まいづくり

夢木香は自然素材にこだわり施工します。素材は身近にありますが、施工するためには職人の技術が必要です。木や竹や土や紙や藁を、大工、左官、瓦、建具、畳職人たちが力を合わせ仕上げてゆきます。古民家の再生を手がけることにより、昔の職人たちと会話ができます。力強さと優美さを兼ねそなえた丸太の木組み、落ちついた風合いのいぶし瓦、漆喰の美しさなど、いたるところに昔の職人の心意気を感じられます。その技術を伝承し、次世代に伝えてゆくことが大切だと感じます。古民家の再生に学び、その技術と思想を、新築やリフォームにいかしてゆくことが、私たちのつとめだと考えます。

本当のエコ住宅とは

近年、エコ住宅をうたいもんく、高気密高断熱が盛んとなえられていきます。通気を遮断し、吸湿性のないビニールクロスの家が多く見受けられます。結露が発生しやすく、カビの原因をつくり、カビがダニを呼び、ダニの死骸がアレルギーを誘発します。それを避けるためには、エアコンや換気扇あるいは除湿機や加湿器や空気清浄機が必要です。つまり、設備機器を効率よく使うための工法です。設備機器がなかった時代につくられた古民家には、機械を使わない工夫があります。呼吸する自然素材がふんだんにつかわれ、梅雨や夏の暑さをしのぐ知恵があります。寒さに対して、適度な気密と断熱をとれば、暮らしやすい住まいになります。本当のエコとは設備機器をできるだけ使わない住まいだと考えます。

有限会社 夢木香 心と体の健康を育む住まいづくり

<http://yumekikou-happy.com> E-mail: yumekikou@globe.ocn.ne.jp

〒849-1315 佐賀県鹿島市大字三河内甲2847 ☎0120-835-832 TEL:0954-69-8333 FAX:0954-69-8334

酒蔵など4棟を 環境に配慮した社屋、工場として再生



人間が家をつくるが 住まいは人間をつくる (イギリス元首相 チャーチル)

自然な環境の中で 仕事がしたい

サガ電子工業は今年で設立41年目を迎えた。1996年に会社を受け継いだ小柳社長は、当時の工場が住宅地にあったこと、建物や設備が古くなっていたため、何らかの建て替えや移転を考えた。決断までには1年かかった。

小柳社長は42歳のときに(2008年)がんがみつかり、残りの人生はちょっとテンボをゆるめた生き方をしたいという考えが強くなったそう。『今はストレス社会なので、ほっとする場所が必要。1日の3分の1は仕事ですが、エアコンでキンキンに冷えて寒い思いをしたり、カラカラに乾いた熱風のなかで仕事するのはよく、なるべく自然な環境の仕事場がでないかと考えるようになりました。さらに「酒蔵に入れてもらったことがあります、ひんやりとしてすぐ快適で、古い床板もすてきて、ここでアンテナの組み立てができたらずせたらうなと思ったことがあります』と話してくださった。

そして2011年3月の東日本大震災と原発事故によって始まった「節電」に直面し、あらためてエネルギーの使い方を考えるようになったとのこと。2ヶ月後、たまたま知人に紹介されて民家を移築再生した店舗に入り「これだ!」と直感され、さっそくホームページで検索し、夢木香が目にとまる。目撃で事務所を訪ね、こういうことがしたいんだと話されると、ちょうど再生を望んでいる蔵があつて、すぐに見に行くことに。武雄市の築100年を超える2棟の酒蔵と、西有田町の築80年の米蔵と納屋を見て決意されました。「古さについては、どこどん占ったので心配を乗り越えていました。できるできないの感覚はなかったですね。その年の11月には契約、12月には蔵の解体工事が始まりました。

再利用と地産地消で 蔵を再生

●再利用可能なものはできる限り使う
移築再生にあたり、小柳社長は使える材料はできる限り再利用するという方針を決め、松尾(夢木香 代表)もそれに応じた。『捨てるものはほとんどありませんでした。壁の上もほとんど使いました。新しい上に古い上を混ぜたほうが

強度が出ます。使わなかったのは木材の悪くなったものくらい。それも冬場に暖をとるための燃料として使いました。蔵の東石や1万枚の瓦も中庭や外構で役目を果たしている。瓦のほとんどは小柳社長みずから配置を考え運んだ。納屋の基礎石は新しく掘った井戸のまわりを開き、このあたりは深さ120mくらいのところに地下水が流れていて、工場ではこれを水クーラーとして冷暖房に利用している。

新しい材料と職人も地産地消す

酒蔵、米蔵、納屋を丁寧に解体して柱・梁をできる限り生かし、竹小舞に上壁、そして漆喰で仕上げ、瓦を葺いている。『時間がかかりましたが、これをしていって意味がないですから』と小柳社長。この蔵で新たに使った木材はほとんど佐賀県産材の杉、製材もうちの工場でおこないます。地元の佐賀の工、左官、瓦職人や電気屋さんを含め延べ5000人が蔵の再生に携わっています。そういう意味でも地産地消なんです。エネルギーの計算はできませんが、環境にいい建物できたと思います。松尾 地域物の小学生を招いて上壁ワークショップも開催した。パートの人たちは竹小舞の作業や上壁づくりに参加した。

省エネ・省資源を实践し 蔵造りの景観を実現

●工業団地にランドマークが誕生
社屋と工場は2013年春に完成し、工業団地に新しい景観を創りだした。建物のまわりには新ストロブ用の新を植えているため、材木屋だと思ふ人や、ここで喫茶店をしたらいいなと夢を見る人もいます。さらに「蔵のもつ調湿・調温機能を最大限に生かして省エネ、省資源といった先駆的なエコ活動を実践しながら、時代を経た蔵を再生利用した美しい景観を創造した」として第17回佐賀市景観賞を受賞しました。

電気エネルギーの使用を減らす

●電気エネルギーの使用を減らす
前の工場のように大容量のエアコンを使っていたが今は使っていない。20cm厚もある上壁の調湿効果により、夏場の蒸し暑さを快適に抑え、水クーラーと天井扇でも涼しく過ごせる。事務所の窓に取り付けたエアコンは、猛暑の日中に数時間使うくらいで済んでいる。冬も「前の鉄骨の工場は、朝会社を開けたら10度くらいで、昼には24度、また夕方

にはぐっと冷え込むように大幅な室温の変化がありました。それに比べて上蔵は朝20度だったから夕方までずっと20度です。小柳社長は上蔵の調湿効果も実感している。パートの方にも話を聞いた。『前の工場は部屋を密封していたので、空気が凝り固まっていたように思いました。ここは天井が高く広くて、のびのびと涼しく、冬は薪ストーブと水クーラーの風だけですごしやすくていいですよ』とおっしゃってくださいました。

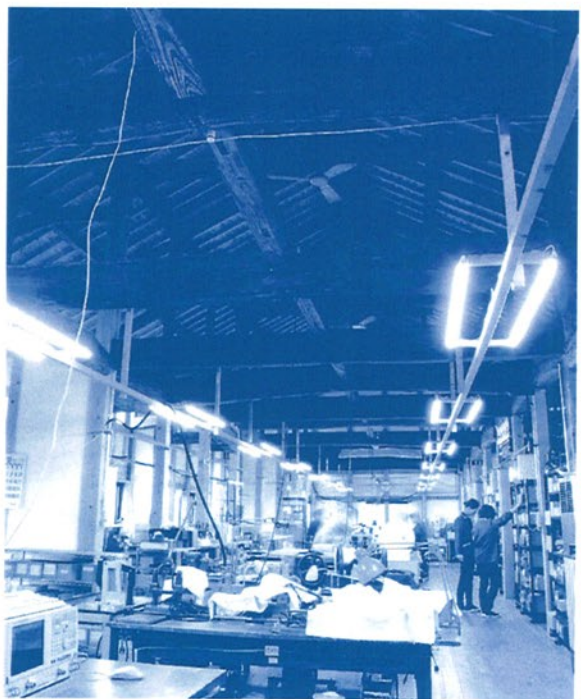
●建物がかかりました
松尾も「100年前の人のびとがつくった建築を受け継ぎ、自然素材を利用する技術は、環境に負担をかけないものです。そういう建物を小柳社長とつくりあげることができました」。

●建物が会社の取り組みを表す
去年の売上は小柳社長が社長になって過去最高となった。技術力はもちろんですが、蔵の効果もあるのだろうか。蔵にした効果は想像以上にあると思います。お客さんが東京から見学に来てくださいます。皆さん「ここまでやるか」と驚かれています。しかし、また別のお客さんを連れてくるんですね。そうしたことから次につながることもあります。私たちが取り組む姿勢を見ていただくことが一番だと思います。また、2015年新卒の中には「蔵が好きなんです」と

次の世代に残すために

松尾は今回の再生をあらためて振り返る。「伝統的な日本の建築は、つくる時にほとんどが人力です。解体する時にもエネルギーはそれほど使わないんです。今回はさらに、ほとんど廃棄物が出ませんでした。出たとしても上に戻ります。しかし、省エネの機器は、つくる時にまずエネルギーが必要です。住宅も省エネといいますが、ゼロにはなかなかできません。最終的に廃棄する時にもエネルギーを使います。昔の人の知恵というのは素晴らしい。そして環境にもいい。これから、このような建物を増やしていくべきです」。

最後に小柳社長に、再生を実現して約3年を経た今の思いを聞いた。「ものづくりの基礎にあるのは職人の技だと思えます。多くの人がこの手によってここができました。職人がいなくなってしまうたらこのような素晴らしい建物がつくれなくなってしまう。ぜひとも次の世代に残していかなければ」。



人が住まいをつくり 住まいが人の心をつくる17 (沖縄の古民家 中村家住宅)